

新生児DIC診断基準(案)

項目		出生体重	
		1,500g以上	1,500g未満
◆ 血小板数 ¹⁾	$70 \times 10^3 / \mu\text{L} \leq$ かつ 24時間以内に50%以上減少	【 1点 】	【 1点 】
	$50 \times 10^3 / \mu\text{L} \leq < 70 \times 10^3 / \mu\text{L}$	【 1点 】	【 1点 】
	$< 50 \times 10^3 / \mu\text{L}$	【 2点 】	【 2点 】
◆ フィブリノゲン量 ²⁾	$50\text{mg/dL} \leq < 100\text{mg/dL}$	【 1点 】	-
	$< 50\text{mg/dL}$	【 2点 】	【 1点 】
◆ 凝固能 (PT-INR)	$1.6 \leq < 1.8$	【 1点 】	-
	$1.8 \leq$	【 2点 】	【 1点 】
◆ 線溶能 ³⁾ (FDP/D-Dimer)	$< \text{基準値の2.5倍}$	【 -1点 】	【 -1点 】
	$\text{基準値の2.5倍} \leq < 10\text{倍}$	【 1点 】	【 2点 】
	$\text{基準値の10倍} \leq$	【 2点 】	【 3点 】

付記事項

- 1) 血小板数: 基礎疾患が骨髄抑制疾患など血小板減少を伴う疾患の場合には加点しない。
- 2) フィブリノゲン量: 基礎疾患が感染症の場合には加点しない。感染症の診断は新生児SIRS診断基準(別掲)による。
- 3) TAT/FM/SFMCは、トロンビン形成の分子マーカーとして、凝固亢進の早期診断には有用な指標である。
しかし、採血手技の影響をきわめて受け易いことから、血小板数やD-dimerなど他の凝固学的検査結果とあわせて評価する。
血管内留置カテーテルからの採血など採血時の組織因子の混入を否定できる検体では、TAT/FM/SFMCの一つ以上が異常高値の場合は、1点のみを加算する。
なお、採血方法によらず、これらの測定値が基準値以内の時はDICである可能性は低い。